



学校名:野田市立北部小学校

氏名:小倉久宜

[担当教科:全科]

- 実践教科等:総合的な学習の時間
- 時間数 :10 時間
- 対象生徒 :26 名
- 対象人数 :26 名

〔1〕 単元名 日本と世界の自然災害

〔2〕 単元の目的/目標(背景を含む)について

① 単元設定の理由

- 本単元は、総合的な学習の時間における国際理解教育並びにキャリア教育の発展的な学習である。本校は外国語活動を低学年から取り入れたり、年に一度北小万博と称して、世界の国々の文化を学んだりと全校児童が外国の言語や文化に触れる機会が多い。そのような環境において子どもたちは世界の様々な国々の文化・習慣に対してとても興味をもっている。

今回扱うエルサルバドルは私が本年度教師海外研修で派遣された国である。「中米の日本」とも呼ばれ、国民性、自然災害の多さなど日本と酷似する部分が多い。しかしながら、日本と比べエルサルバドルは自然災害に対して世界で2番目に脆弱な国であり、毎年死傷者の数が大変多い。その現状を伝え、東日本大震災や竜巻を体験した私たちが、被害を最小限に抑えるためにどんなことをしてきたのかを振り返り、エルサルバドルの子どもたちが自然災害に対してどのような行動をとればよいのかを考えることにより、国際貢献・支援の在り方について考えられるように、本単元を設定した。

② 目標

- エルサルバドルという国の場所・自然(災害)・地形・国民性・文化・歴史・気候、そして経済等の特色を知る。
- 防災体験プログラム(カエルキャラバン)を見て、これから何を自分たちができるのかを考える。
- 防災教育への関心を高め、今の自分に何ができるのかを考え、行動することができる。

〔3〕 単元の構成

過程	時配	本時のねらい・テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
見 い 出 す ・ 調 べ る	1	【世界の様々な国々1】 ○ 北小万博で開かれるパビリオンの国の一般家庭の中にあるものを見て、世界の様々な国に対する興味を持つ。	・ フォトランゲージを行う。	地球家族	ワークシート 観察
	2	【世界の様々な国々2】 ○ 一週間の食べ物の写真を見て、世界には裕福な国とそうでない国があることを知る。	・ フォトランゲージを行いながら、それぞれの国の1週間分の食料を見て、気付	世界の食卓 『世界がもし100人の	観察 ワークシート

2		○ 世界の現実を知る。 ○ 100村の本を通して、世界には不平等な関係があることに気付く。	いたことを付箋紙に書き込む。 男女の割合，世界の大人と子どもの割合，識字率を知る。	村 だ っ た ら』	
深 め る 5	3 4	【エルサルバドルってどんな国】 ○ 自分たちの知らない国があることに気付かせ、エルサルバドルへの興味を持つ。 ○ エルサルバドルの気候、自然災害（水害・地震・火山の噴火）そして、文化や人々のくらしの様子を知り、日本との違いや共通点を知る。	エルサルバドルの写真を見せたり、クイズをしたりして、エルサルバドルの様子を知る。	衣装，おも ち や， 言 葉，	観 察 ワ ー ク シ ー ト パ ワ ー ポ イ ント
	5 6 7	【私たちにできることを考えよう1】 (1) 自然災害が起こった際に必要なものの優先順位を考えよう。 (2) 自然災害が起こった時の応急手当やけが人搬送の方法を知ろう。 (3) 日本で行われている自然災害に対する取り組みを調べてみよう。	- 興味を持った活動に対して、グループ学習する。 - 竜巻や地震が起こった際に必要だったものを話し合い、優先順位を考える。 - 養護教諭から、応急手当の方法を知る。 - けが人の搬送の仕方、下敷きになってしまった人の救出方法を知る。 - 国や地域で行われている日頃の取り組みを知る。	タ オ ル 雑 誌 シ ー ツ	観 察 ワ ー ク シ ー ト
ま と め	8 (本時)	【私たちにできることを考えよう2】 ○ 3つのグループによる発表を通して、防災に対する意識を高める。	今の自分に何ができるのかを考える。		観 察 ワ ー ク シ ー ト
あ げ る 3	9	【私たちにできることを考えよう3】 ○ エルサルバドルで行われている防災教育について知る。	エルサルバドルで活躍している日本人のビデオを見て、活動の様子を知る。	ビ デ オ	観 察 ワ ー ク シ ー ト

	10	【エルサルバドルと日本の結びつき】 ○ JICA の活動から日本との結びつきについて知ることができる。	・ 様々な分野で活躍している日本人のインタビューを見て、日本の活動について知る。	ビデオ	観察 ワークシート
--	----	---	--	-----	--------------

〔4〕 授業の詳細

1時間目〔世界の様々な国々1〕

北小万博で開かれるパビリオンの国を中心に一般家庭の中にあるものをみて、世界の様々な国の生活様式などに触れることで、どんな人々がどんな暮らしをしているのか興味を持たせた。



〔中国館での活動の様子〕



〔日本館での活動の様子〕

2時間目〔世界の様々な国々2〕

一週間の食べ物の写真を見て、世界には裕福な国とそうでない国があることを知り、開発支援の必要性について考える。



〔日本について〕



〔グアテマラについて〕



〔エチオピアについて〕

〈児童の感想〉

- 日本と全然違ったのでびっくり。勉強になった。
- 食料の多い国とそうでない国の差が激しい。少ない国は大変だと思う。
- 自分たちがどれだけたくさん食べているのかが分かった。
- 給食を残さないようにしようと思った。
- 毎日バランスのとれた食事がとれることってすごいと思った。
- (「世界がもし 100 人の村だったら」を終えて…) 文字が読めないと不便だということは前から考えていたけれど、命の危険もあると初めて知った。
- スペイン語を話す国が意外と多かった。

3・4時間目〔エルサルバドルってどんな国？〕

エルサルバドルの気候や文化、人々のくらしの様子をクイズ形式で学び、日本との違いや共通点を知る。また、エルサルバドルの人々に対して、どんな支援が必要なのかを考える。



〔エルサルバドルまでの時間〕



〔言語〕



〔民族〕

〈児童の感想〉

- 結構近代的だけど、暑いのは大変だと思った。
- 日本と違ってピストルを持った人がたくさんいて驚いた。
- 民族衣装のドレスが素敵だった。ハンモックで寝てみたいと思った。
- 随分自然災害が多い国だと思った。どうしてお金はアメリカドルなんだろう。
- 有名な料理は食べてみたいと思った。

5・6・7時間目〔私たちにできることを考えよう1〕

前時の学習から、エルサルバドルは自然災害の多い国であることを学んでいる。そこで、東日本大震災や竜巻による被害を受けている自分たちに何ができるのかを考え、エルサルバドルの人々へ提案することを目的として、災害を最小限に防ぐ方法や被災者を救う方法などを考える。



〔エルサルバドルの地形〕



〔土砂災害の危険性〕



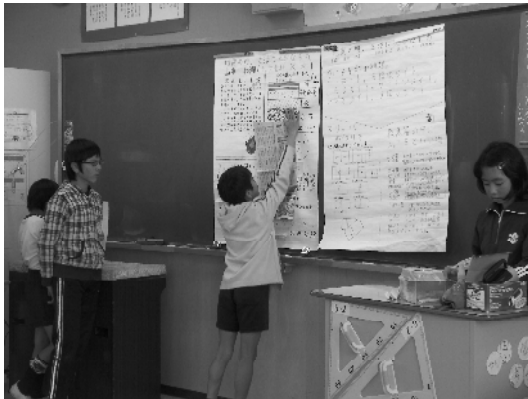
〔河川の決壊の危険性〕

〈児童の感想〉

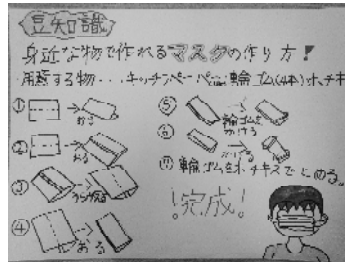
- 日本の富士山と同じ形の山がある。それに平地が多くて山地が多い。日本と似ている。
- 地震や津波の経験をしているってことは、日本と同じように結構被害を受けていると思う。
- 日本のように避難訓練があるのか心配になりました。
- エルサルバドルのみんなに避難の仕方とかを教えてあげた方がいいと思いました。
- 僕たちみたいに竜巻って経験することはないのか知りたいです。
- 男の人が少ないみたいだから、災害が起こった後はどうしているのか心配になりました。

8時間目〔私たちにできることを考えよう2〕

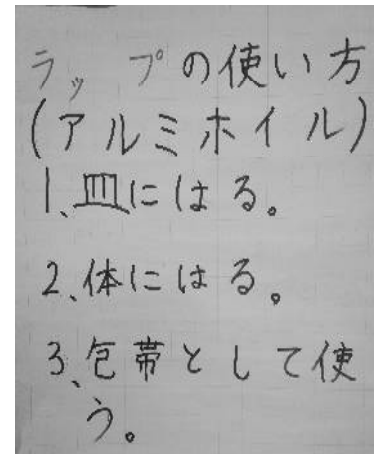
エルサルバドルの人々へ提案することを目的として、災害を最小限に防ぐ方法や被災者を救う方法などを発表する。



〔スリッパの作り方や救急箱の中身〕



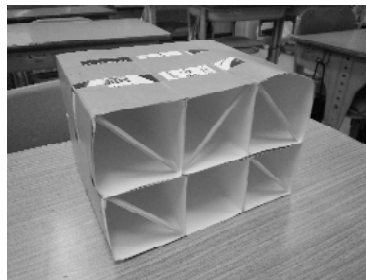
〔簡易マスクの作り方〕



〔ラップの活用法〕

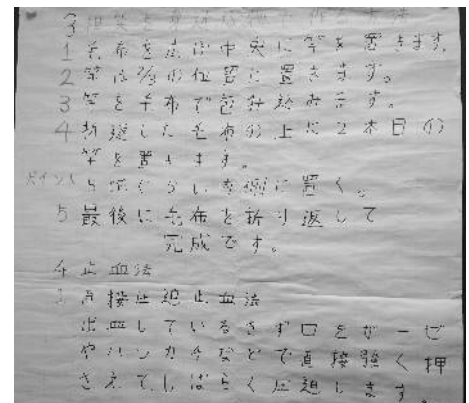


〔簡易式雨具の作り方〕



〔耐震工事の仕組み〕

〔簡易担架の作り方と止血法の紹介〕→



〈児童の感想〉

- キッチンペーパーでマスクを作ったり、新聞紙でスリッパを作れたりするなんてすごいと思った。
- 注意報にはいろいろな種類があることがわかってよかった。
- 学校の耐震工事の仕組みがよくわかった。 ○ ラップで体を温められるのはすごいと思った。
- 次は自分も担架に乗って落ちないのか体験してみたい。
- ロープの縛り方に名前があるのを初めて知った。○○さんに教えてほしい。
- ○○くんのグループは発表の仕方がクイズ形式で、自分の意見も言っていたので面白かった。
- ○○さんのグループの地震が起こった場面を想定しての、止血法の紹介や、骨折した時の手当の仕方は分かりやすかった。自分でも手当の方法をやってみたい。 ○ 防災料理を食べてみたいと思った。

9時間目【私たちにできることを考えよう3】

エルサルバドルで実際に防災教育を行っている原青年海外協力隊の活動を見て、自分たちの考えた活動を生かすことができるか検証する。

〈児童の感想〉

- 自分たちと似た活動があってよかった。これで、エルサルバドルの人たちも大丈夫だと思った。
- 消火活動は自分たちも実際にやってみたいと思った。○ マスクやスリッパの作り方は紹介してあげたい。
- 足を骨折した時の紹介はできなかったの、紹介できれば良かった。

10時間目【エルサルバドルと日本の結びつき】

エルサルバドルで活躍している日本人の活動を知り、国際支援の在り方についてさらに理解を深める。

〈児童の感想〉

- 国際貢献を自分でやりたくなった。他の国に行きたいという気持ちが強くなった。
- こんなところで日本人がこんなに活躍していることを誇りに思う。
- 大人になったら、ビデオで見たような国際貢献をやってみたくなった。
- エルサルバドルの幼稚園で働きたいと思った。

【5】 児童・生徒の反応/変化

- 11/8 の「あなたは外国に行ってみたいですか。」という問いかけに対して 84%の児童が「行きたい。」と答えていたが、そのほとんどの理由は、主に観光や異文化とのふれあいが多かった。しかし、12/19(単元終了後)の同様の質問に対して同じ割合であったが、その理由は「外国の文化をもっと知りたいから」「学んだことを生かしてみたいから」「外国に行って、その国の問題を解決したから」「留学したいから」など、国際貢献を意識した回答が多く寄せられた。また、「今回の学習から、外国で活動したいですか。」という質問に対して、学習前と学習後では 54%から 42%に低下(3人減少)した。このことは、「外国＝楽しいところ」ではなく、治安の問題などに触れることができたことが要因と考えられる。そこで、外国での活動がより多くの人々の幸せにつながることを今後の授業の中で紹介していこうと考える。一方、「活動したい」と答えた児童にその理由を尋ねたところ、「ボランティアをしたい」「その国の人たちに役に立つ仕事をしたい」「ホームステイをして一緒に働きたい」「外国で保育士をしてみたい」などの意見を聞くことができた。

以上のような結果から、外国に対する興味は学習前と学習後では、大きく変わらなかったが、世界に対して「何かしたい。」「何か役立つ仕事がしたい。」という意欲の向上が見られた。

【6】 授業実践の成果と課題

◎ 成果

- ・ 世界の現状を考え、その後エルサルバドルという国に対してどんな支援が必要なのかを考えたことで、開発国への支援の在り方について考えることができた。
- ・ 事前の研修でフोटランゲージを行ったことなど開発教育の手法を学べて、授業の幅が広がって、子どもたちは楽しく学習に取り組めた。

▲ 課題

- ・ 伝えたいことが多くなり、1時間内に収まらないことが多くあった。
- ・ 単元の時数確保が難しかった。

〔7〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・ 『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第3版』開発教育協会 2011年
- ・ 『世界と地球の困った現実―飢餓・貧困・環境破壊』日本国際飢餓対策機構 2013年
- ・ 『地球家族 世界30か国のふつうの暮らし』TOTO出版 2012年
- ・ 『地球の食卓 世界24か国の家族のごはん』TOTO出版 2012年